

花畑運河は荒川放水路の土木遺産

シビルNPO 連携プラットフォーム 理事
(日本河川協会 理事) **三井 元子**



はじめに

花畑川は、東京足立区の北東部にある中川と綾瀬川をつなぐ運河である。荒川放水路が開通すると舟運の渋滞が起こる事が予想されたため、昭和6年に開削された。開削当時の景観を残しているこの運河が、今、壊われようとしている。花畑川を荒川放水路の土木遺産として推薦したい。



写真-1 昭和7年「花畑運河混凝土張護岸」
(足立区郷土博物館 千ヶ崎家蔵)



写真-2 「混凝土張護岸」の様子が彷彿とされる
令和1年の花畑川

1. なぜ運河開削が決まったか？

明治43年に東京・埼玉大水害があり、荒川の破堤箇所数十か所、死者369名、被災者150万人、流失・全壊家屋1679戸、浸水家屋27万戸、被害総額は国民総所得の約4.2%であった。そこで政府は、荒川放水路開削を決意。明治44年から19年の歳月をかけ、昭和5年に幅500mの荒川放水路が完成する。

ところが東京都心部への貨物の重要な舟運路であった中川は、放水路と並行して、大きく迂回して、木下川水門または小名木川水門を通過しなければならなくなり、閘門（ロックゲイト）で船が渋滞することが懸念された。そこで、大正10年に花畑運河開削が決定される。中川と綾瀬川をつなぐ運河を開削すれば、綾瀬川からは、放水路を横切って墨田川水門に入れることから、「約4

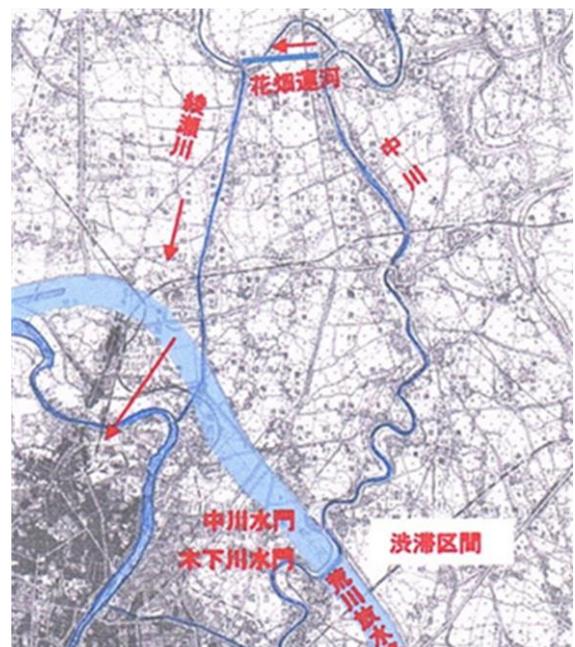


図-1 測量部 5万分1地形図 東京東北部(1921)に
加筆(博友会 鈴木恒雄氏作画)

里（16km）の短縮になるばかりか、屈曲が少ないので、時間と労力が省ける。船だけのためではなく、市場における物資供給の円滑化となり、地方への輸出入の運輸が敏活になると共に、陸上物資の停滞を緩和する他、経済上に及ぼす利益は少なくないと認め」花畑運河開削を計画した。

そして、昭和6年、幅33.6m 延長1,485mの運河が完成した。葛西用水は伏越で運河を横断させ、中川口には逆流を防ぐため水門をもうける形にした。工費は、36万7650円。（現在の約3億5千万円）。

東京府の大正10年の調査によると、東京市における貨物の集散量全体の3割は水運により集積され、市内河川・運河で取り扱われたものは年1,800万tに達していたという。

中川舟運は、ほとんどすべてが東京への輸出入で、花畑川では、1年間に下り貨物42,000t、米穀、醤油、粗碎、縄苳類。上り貨物8,000t、雑貨、木材、石炭、豆粕、他に人糞尿40万荷。これを運搬する船は日に212艘もあった。

<参考文献>

- (※「日本土木史 大正元年～昭和」：日本土木学会)
- (※「荒川下流史」：(財)リバーフロント整備センター)
- (※「新修足立区史」下巻：足立区)
- (※「東京府史 行政編」第4巻：東京都)
- (※『都史資料集成』第7巻◎震災復興期の東京②』)

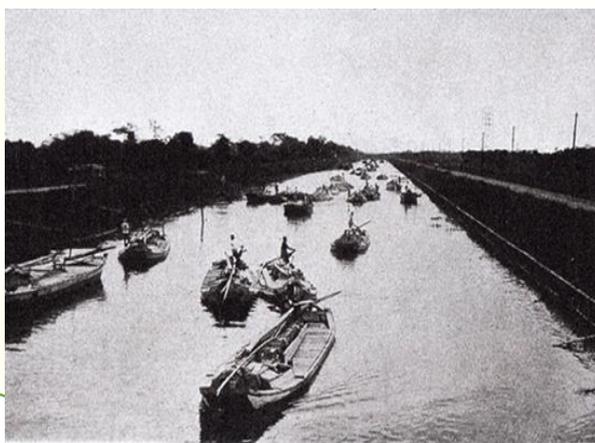


写真-3 昭和8年の舟運の様子（綾瀬川）
鈴木恒夫氏提供

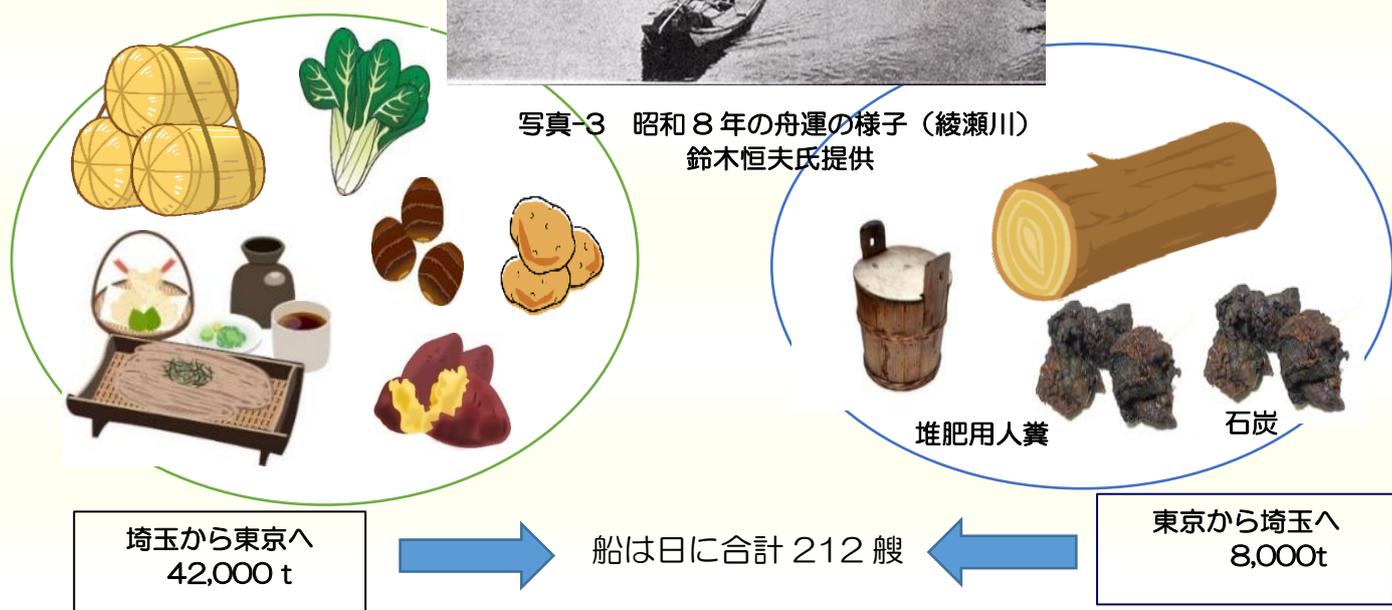


図-2 中川舟運で運ばれた物資

2. 国の「都市計画法」制定後、関東で初めて完成した開削運河

日本土木史に拠れば「大正8年(1919)の都市計画法制定後、全国的にも都市計画事業として新たに開削された運河は少なく、大阪の城北運河、名古屋の中川運河、富山の富岩運河など、きわめて少ない例であるといえる。」とある。

令和1年になって足立区は、川幅を半分の17mにして、両岸に8mの河津桜並木を作る計画を進めようとしている。

戦後、陸運が活発になり、たい肥も化学肥料の台頭によって使われなくなり、舟運は昭和31年頃に姿を消した。が、現代は、水面の価値に対する理解が深まり、かつて蓋掛けした川を開いたり、観光のための舟運を見直したりしている時代である。

今も開削当初の運河の景観が残っている花畑川は、歴史的にも経済史的にも、極めて貴重な河川である。時代に逆行する改修はやめるべきだ。水質が良くなり、魚影もみえるようになった花畑川を一度、ぜひ散策してみしてほしい。



写真-3 エコ夢探検隊「カヤックでゴミひろい」
2019.10.19



図-3 足立区の花畑川

- ・千代田線綾瀬駅から八潮市役所行きバスで14分
神明町下車すぐ
- ・つくばエクスプレス 六町駅下車
徒歩15分

表-1 花畑運河(花畑川)の年表

1910(明治43年)	荒川大洪水。荒川放水路建設決定
1919(大正8年)	国の都市計画法制定される
1921(大正10年)3月	東京府議会にて花畑運河開削決定
1925(大正14年)9月	関東大震災
1925(大正14年)末	運河開削工事の実施決定
1927(昭和2年)	開削工事着工、花畑村耕地整理組合 設立認可され事業を開始
1931(昭和6年)12月	運河完成。舟運路が16km 短縮された
1941(昭和16年)6月	東京市に譲渡され、準用河川となる
2001(平成13年)	東京都から足立区が管理移管される
2002(平成14年)3月	花畑川整備基本計画=川幅 23m+桜並木散策路 6.5m を計画、地元合意
2019(令和1年)	川幅 4.5m~17m+桜並木散策路 8mの修正案が区議会で審議されている

なんで川幅を半分にする計画なのか
魅力半減だよな